



Title: 梅原真、全部あります

❖梅原真4冊揃いました

ちょっとしたマイブームとなっている高知在住のデザイナー・梅原真（うめばら・まこと）。中央図書館が所蔵する梅原本は、発売順に並べると次のとおりです。

- ①『おまんのモノサシ持ちや！ 土佐の反骨デザイナー・梅原真の流儀』篠原匡（ただし）著、日本経済新聞出版社発行、二〇一〇年
- ②『ニッポンの風景をつくりなおせ』梅原真、羽鳥書店、一〇年
- ③『梅原デザインはまっすぐだ！』梅原真・原研哉、羽鳥書店（はとり文庫）、一一年
- ④『ありえないデザイン』梅原真著／沢部ひとみ文・構成、六曜社、一三年

本人の著書3冊に加え、梅原真の全体像を伝えようという熱気に満ちたノンフィクションの①を合わせた単行本4冊（③は文庫判ですが）。全部揃っているのは県内で大館市立図書館だけです。

デザイナーというのは多様な意味合いで使われる言葉ですが、一般には佐藤可士和や原研哉のような、いわゆるグラフィックデザイナーが想起されることが多いでしょう。梅原真の特異なところは、その土地らしい生活や風景の核心をつかみ、その土地に根差した産業や文化を、経済的な発展にも寄与する形でデザインし伸ばそうとするところ。何より第一次産業にこだわる姿勢。ごまんという上っ面の町おこし村おこしプロデューサーとは、どこか本質的に違う人のようです。そして、いくつもの成功例を見る限り、どうやら人の心に火をつけるというか、独特のコミュニケーション技術をもっています。自分も含めてこの地域の人々に見られる事大主義というカルサンチマンというか、そんな心性とは無縁の向日的な性格も。

大館が梅原さんと本格的に絡み、バカになって動く人間が幾人かでも出てきたら、大館も面白いことになるのではないかという楽しい想像が膨らみます。こんな野次馬的物言いも多分梅原さんの嫌うところでしょうが、自ら動き周りを巻き込めるような人が大館にもいることを実感しているので、楽しみにしたいと思います。それはともかく、取りあえず梅原本に触れてみてください。いろんなヒントがもらえるはずですよ。

❖秋田のデザインは……

『地域発ヒット商品のデザイン』（パイインターナショナル、二〇一四）という本を中央図書館の書架で見つけました。全国の土産物で商品パッケージが良くて売れているモノを、写真満載で載せた本です。秋田県からは何が載っているだろうかとパラパラやると、あれっ、ない。東北北海道で掲載なしは秋田だけ。他には埼玉、群馬、千葉、三重、大分の5県ありました。まあ編著者のクレジットのない本なのでどこまで本腰を入れた取材・編集なのかわかりませんが、それでもなんか面白くないですね。

もっとも、大館のお土産を買おうとしてあれこれ悩むのは毎度のこと（私だけですか？）。梅原真の眼にはどう映るか、ちょっと気になったものですから。ちなみにこの本は、中央図書館の、分類記号675（マーケティング）のところにあります。

❖秋田の森林率は17位

梅原真が始めたことに「84（はちよん）プロジェクト」というものがあります。意外な気もしますが、高知は県面積に占める森林の割合（森林率）が84%で日本一。南国土佐は実は山がちで平地の少ない県なのです。

都道府県別のランキングといえば、便利なのはなんとといってもWEBサイトの「都道府県格付研究所」。それによると、確かに高知が83・3%で1位。四捨五入では83%じゃないの、という茶々はおいといて、2位は岐阜、3位山梨、秋田県は70・5%で17位でした。全国平均61・6%よりは高いけれど、今ひとつ腑に落ちないですね。

でも、森林面積のランキングを見るとこちらはイメージどおり。1位北海道は5万3千平方キロと秋田県の全面積の4・6倍で断トツ。以下岩手、長野、福島、岐阜と来て、6位が秋田県です。統計というものが指標の取り方次第で随分見え方が変わるものだという一例です。ちなみに、人口百万人当たりの図書館数ランキングもあって、これまた意外なことに秋田県は42館で堂々の8位です（全国平均は30館）。これも、面積比とか図書館への平均アクセス距離や時間とかだったらガタンと下がるんだろうなあ。

——本日10時から11時まで、中央図書館で「春休みワクワクドキドキおはなし会」があります。読みきかせグループ「おはなしの森」の皆さんが総力を挙げての特別版です。どなたでもどうぞ、待ってます。 （陽）